



龍野城の歴代城主

赤松 村秀	永正3(1506)年頃～天文9(1540)年
赤松 政秀	天文9(1540)年～元亀元(1570)年
赤松 広貞	不詳
赤松 広英	～天正5(1577)年
蜂須賀正勝	天正9(1581)年～天正13(1585)年
福島 正則	天正13(1585)年～天正15(1587)年
木下 勝俊	天正15(1587)年～文禄3(1594)年
小出 吉政	文禄3(1594)年～文禄4(1595)年
山口 広貞	文禄4(1595)年 在城せず
(豊臣秀吉蔵入地)	
池田 輝政	慶長5(1600)年～慶長18(1613)年
(城代) 荒尾 成房	
池田 利隆	慶長18(1613)年～元和2(1616)年
(城代) 池田 長明	
池田 光政	元和2(1616)年～元和3(1617)年
本多 政朝	元和3(1617)年～寛永3(1626)年
小笠原長次	寛永3(1626)年～寛永9(1632)年
(徳川幕府直領)	
岡部 宣勝	寛永10(1633)年～寛永13(1636)年
(徳川幕府直領)	
京極 高和	寛永14(1637)年～万治元(1658)年
(徳川幕府直領)	
脇坂 安政	寛文12(1672)年より明治まで 脇坂家10代

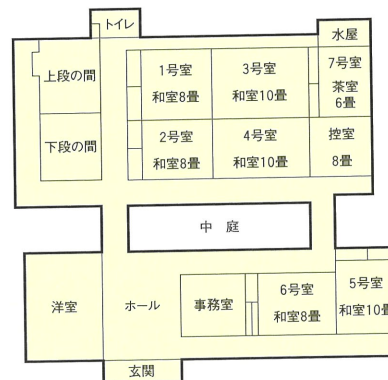
開館時間 8:30～17:00

休館日 月曜日(月曜日が祝日の場合、翌日)
年末年始(12月29日～1月3日)

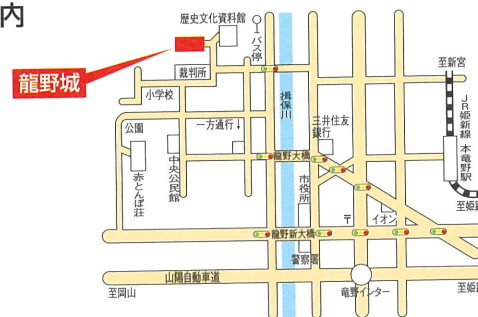
入場料 無料

部屋の使用料

使用場所	使用区分	
	9:00～12:00	12:00～17:00
1号室～ 6号室	1室につき 2,500円	1室につき 4,000円
7号室 茶室・水屋	5,000円	8,000円



交通案内



たつの市都市政策部都市計画課

〒679-4192 兵庫県たつの市龍野町富永1005-1
TEL 0791-64-3164 FAX 0791-63-2594

龍野城管理事務所

〒679-4179 兵庫県たつの市龍野町上霞城128-1
TEL 0791-63-0907 FAX 0791-63-0998
(歴史文化資料館と共用)



たつの市



龍野城の歴史

龍野城は、中世に赤松村秀によって築かれたと伝えられています。当時は、標高200m余りの鶏籠山(けいろうざん)の山頂に築かれていました。

村秀は、当時、播磨、美作、備前の国主であった赤松氏の一族として揖東・揖西郡を治めていました。龍野赤松氏は4代続きますが、天正5(1577)年秀吉の軍に戦わずして城を明け渡します。その後、蜂須賀、福島など豊臣配下の大名が在城します。

徳川の時代になると、播磨一国は池田氏の領地となり、龍野には城代が置かれます。その後は姫路城に本多忠政が入ると、龍野には二男政朝が配置されますが、兄忠刻の死により、姫路城主に移ります。

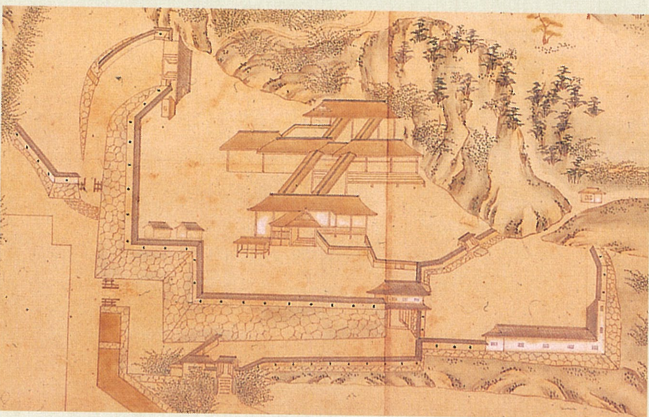
その後も、小笠原、岡部、京極と続き、万治元(1658)年京極氏が丸亀へ移った後、一時、幕府領となり代官によって支配されていました。

このため、寛文12(1672)年脇坂安政が信州飯田より入部した時には城、侍屋敷も壊され「城郭の地ごとく土人の田畑となるありさま」で、安政自身も城下の商家を居館とし、1年余りで城を再建しました。

時代は既に太平の世でもあり、元々、外様大名でもあったので、幕府の嫌忌に触れることを恐れ、鶏籠山麓の御殿式の城を修復しています。

近年の調査では山城時代に日常生活していた居館が現在の御殿の部分にあたります。

御殿は、政庁でもあり、藩主の住まいの役割も果たしていました。



江戸時代末期の龍野城内

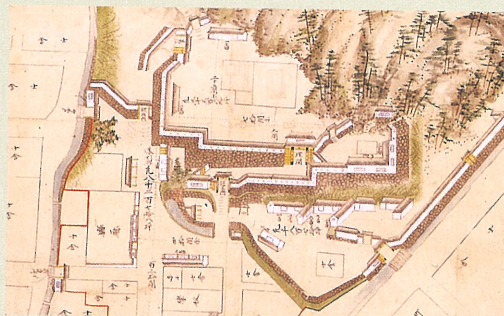


龍野城主脇坂氏

脇坂安政は寛文12(1672)年に信州飯田より龍野に入部、以来明治まで10代200年間龍野を治めました。

脇坂氏初代の安治は豊臣秀吉の配下として、秀吉が信長亡き後、柴田勝家と覇権を争った合戦で賤ヶ岳七本槍の一人として活躍した武将でした。3代安政は、幕府老中堀田正盛の二男でしたが、弟堀田正俊が老中の時、外様から願譜代に転じています。

4代安照は忠臣蔵で名高い赤穂事件の時、赤穂城請取りの正使を務めたことで知られています。次の安清の時、弟安利に2千石を分地したため、以後、脇坂家は5万1千石となります。10代安董は28年間の寺社奉行と4年半の老中を務め、この間、延命院事件や出石仙石家のお家騒動、朝鮮通信使出迎えの副使などを務め、藩校「敬楽館」を造りました。次の安宅も、寺社奉行、京都所司代を経て、2度の老中を務めています。



明治4年頃の
絵図



よみがえった龍野城

明治4(1871)年の廃藩置県により龍野城の建物はすべて競売によって取り壊され、大手門から冠木門(かぶりきもん)に至る中間に裁判所が建てられました。城内には明治末に女学校が置かれた時、新たに進入道路が新設されるなど大きく変わっています。

昭和50年より5年間で城壁、多門櫓、埋門、石垣、本丸御殿、鍛坂門(しころざかもん)が再建され、後に隅櫓が建築されました。

また、再建にあたっては、現在残る絵図を参考にすべて木造、土壁で建てられています。

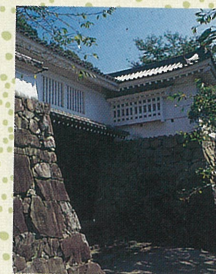


脇坂家の系図

藩祖 脇坂安治^{やすはる}…近江出身 洲本城主
秀吉の水軍を務める
脇坂安元^{やすもと}…伊予大洲、信州飯田
文人大名として知られる

脇坂安政^{やすまさ} 寛文12(1672)年龍野入部
～貞享元(1684)年
貞享元(1684)年～宝永6(1709)年
宝永6(1709)年～享保7(1722)年
享保7(1722)年～延享4(1747)年
延享4(1747)年～宝暦7(1757)年
宝暦7(1757)年～宝暦9(1759)年
宝暦9(1759)年～天明4(1784)年
天明4(1784)年～天保12(1841)年
天保12(1841)年～文久2(1862)年
文久2(1862)年～明治2(1869)年

安照^{やすてる}
安清^{やすずみ}
安興^{やすおき}
安弘^{やすひろ}
安実^{やすみね}
安親^{やすちか}
安董^{やすただ}
安宅^{やすおり}
安斐^{やすあや}



青葉薫る埋門

桜満開の隅櫓

